



『 E S D について 』

内視鏡の先端に小さな電気メスを出して食道、胃、大腸の腫瘍（がん）を切り取っていく方法を内視鏡的粘膜下層剥離（はくり）術（E S D）と言います。ここ10年の間に内視鏡治療の進歩は目覚ましく、従来は外科的治療の適応とされた内視鏡切除が難しいがんや、大きながんであってもE S Dで完治することが可能となってきました。

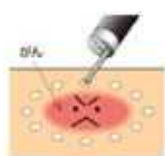
E S Dは臓器を温存することができ、入院期間も短く体への負担も非常に軽くて済みます。

ただし、E S Dの適応となるがんは、リンパ節に飛び火をしない早期のがんに限られます。

そのようながんを見つけるためには人間ドックなどで定期的に検査を受けることが大切です。

今まで高度先進医療であった大腸のE S Dも、4月から胃、食道に加えて保険適応となり、費用の負担も軽減されるようになりました。

なお、E S Dの検査方法の詳細は、当院ホームページの消化器内科にも掲載してありますので、是非ご覧ください。



1、がんの範囲を確実に診断し周囲にマーキング



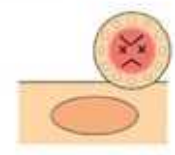
2、がんの下にヒアルロン酸などの液体を注入



3、電気メスでマーキングの外側を切開



4、がんの下を電気メスで剥離（はくり）



5、完全に剥離し、確実に切除完了



6、切除部に出血があれば止血しがんを回収

オリンパスおなかの健康より一部引用

鹿児島厚生連病院
消化器内視鏡科部長
徳重 浩一